令和８年度 横浜緑園高等学校 第２回学校運営協議会 記録

日時：令和８年 10 月３日（土）
14 時 00 分～16 時 00 分
場所：本校 会議室
司会 副校長
記録 広報・授業研究 G

1 校長挨拶
今年度、文化祭の新たな取り組みを踏まえて、来年度も改善していき実施していく。
生徒の成果について、生徒の活躍を喜ぶとともに今後も頑張ってもらいたい。
人権教育に関して、１年次で多くの講演会を行った。

2 学校運営協議会委員及び事務局の紹介
大河原副校長より委員の方の紹介があり、委員の方よりご挨拶を頂いた。
谷委員 萩原委員 前田委員 佐藤委員 髙山委員 敦賀委員 新井委員 時乗委員

3 文化祭（一般公開）巡回視察

4 ご意見・ご感想等
谷委員：生徒がイキイキとしており、昨年までの課題に対し解決策として事前予約制が取り入れられており良い。
萩原委員：写真部や美術・陶芸の作品等が素敵である。
前田委員：生徒が主体的になって準備・活動しており良い。
佐藤委員：昨年度の人混みを考えると、今年度は受付のスムーズさ等の質が向上している。
髙山委員：生徒主体で行われており、中学生またその保護者が将来を想像できるような文化祭である。
敦賀委員：吹奏楽部や写真部など部活動の活動が良い。展示物から人権教育の連携ができており良い。
新井委員：生徒が主体となり行われている。
学習指導要領変更に当たり、本校の特色を更に見つけることに期待する。
時乗委員：４、５年前と比べ、生徒が自分たちで楽しんでいると感じる。
人権教育を通し、他人事ではなく自分事として捉えており、取組の成果を感じた。

5 事務局より
今後の日程について
・「学校へ行こう週間」について 告知
・次回 第３回学校運営協議会 令和９年 ３月５日（金）午後

6 校長より
いただいたご意見や新たな学校指導要領を踏まえ、本校の特色を見出し、今後も学校経営を行っていく。

7 閉会
大河原副校長より本協議会の閉会が告げられた。

アンケート結果

1　文化祭視察についてのご意見・ご感想等

○ 生徒が自ら作り上げているように強く感じました。（先生方は裏方に徹していました）高等学校の文化祭は、生徒が主体となって企画し、協力して運営し、学びの成果を発表する場であることが大切です。学習指導要領解説でも、文化祭は日頃の学習成果を発展させて発表し合い、互いに鑑賞し合う文化的行事として位置づけられ、異学年交流や学校の伝統の継承、家庭や地域との交流を深める機会にもなると示されています。10 月 3 日(土)に見させていただいた、神奈川県立横浜緑園高等学校の文化祭は、この位置づけにおいて開催されているいえます。

また、事前予約制度や電子決済を導入するなど、事前準備をきちんと運営されていました。おそらく、生徒会や文化祭実行委員会？を中心に、これらの運営に関し、ＰＴＡ（保護者）なども巻き込み、テーマから日程、予算、ルールを決めて、なおかつ、生徒主体に進められていることに感銘をうけました。文化祭は、楽しいだけでなく、生徒が考え、協力し、学びを形にする文化的行事です。

今後も、生徒主体、学習成果（文化部の活動含む）の発表、安全な運営、地域との交流をはたしていく、横浜緑園高等学校の文化祭を継続していただきたい。そのためにも、事後の振り返りを学校全体でしていただき、次年度へ継続していただきたい。（新井委員）

○ 生徒主体の運営について

教員が前面に出るのではなく、生徒自身がそれぞれの役割を担い、自分たちで文化祭を動かしている様子が印象的でした。呼び込みなども生徒が頑張っており、何より生徒たちが生き生きと過ごしていました。

こうした経験そのものが、グランドデザインにある「主体的に行動する姿勢」や「自ら成長する力」につながっているのだと思います。（高山委員）

○ 人権教育について

人権教育を学校の特色として掲げる中で、横田さんの講義を聞いた生徒が「衝撃だった」「こうしたことを伝える必要性を感じた」と感じ、その学びを写真や感想文として文化祭で展示していたことが印象に残りました。

「学んで終わり」ではなく、感じる→考える→自分の言葉で表現する→他者に伝えるところまでつながっている点に、教育としての良さを感じました。（高山委員）

○ 緑園高校らしい表現について

吹奏楽の演奏はレベルが高く、文化祭の大きな魅力になっていました。また、写真、生花、絵画、分教室の作品など、さまざまな表現が展示されていたことも良かったです。作品だけでなく感想も集めており、「表現する側」と「受け取る側」の双方があることも印象的でした。（高山委員）

○ 紙と AI について

パンフレットについては、紙には紙ならではの良さがあり、無理に費用をかけてデジタルパンフレットに置き換える必要はないと思います。

一方で、これからの生徒たちは AI と向き合っていくことになります。だからこそ、AI を使うこと自体を目的にするのではなく、「自分はこう表現したい」という思いを実現するための補助ツールとして使う経験があってもよいと思います。

例えば、今回の出店紹介のイラストなどを AI で制作してみる。AI に任せきるのではなく、自分のアイデアを形にするために活用する。そうした経験を通じて、AI と上手く付き合う力を身につけていくことも、これからの教育では大切だと思います。（高山委員）

○ 各企画どれも大変盛況でした。人権教育のパネル展示や分教室の取組を拝見し、高大連携が多少なりとも役に立っていることをうれしく思います。また、吹奏楽部の演奏が素晴らしかった。（敦賀委員）

○ 初めて緑園祭に参加しました。生徒たちのそれぞれの日頃の成果を見せて頂きました。特に吹奏楽部の演奏は素晴らしかった。（萩原委員）

○ 生徒が楽しそうにやっていたので、良かった。分教室が一緒に参加しているのもよかった。華道部体験ができるのが面白い。PTA 写真展示等、PTA の PR で活動の見える化ができているのでは。写真部が見応えがあり、吹奏楽部がすごかった。生徒の安全確保、事前申請制など改善も進んでいるのを感じた。（谷委員）

2　本校の学校運営についてのご意見等

（1） 地域連携についてのご意見等

○ このすばらしい横浜緑園高校の良さを地域に是非生かしてほしい。（萩原委員）

○ 家族で楽しんでいるのを見れました。地域でもなじみのイベントになっているように感じた。（谷委員）

○ 地域連携というと、高校生が地域を知る、地域の課題を知る、という高校側からの視点になりがちですが、私はもう一つ、地域の側から高校生を知ってもらうことにも価値があると思っています。

高校生が地域のイベントや活動に参加することで、「高校生ってこんなことができるんだ」「こんな発想をするんだ」と地域の方に知ってもらえる。そうすると、地域にとって高校生が「支援する対象」ではなく、一緒に何かをつくる存在になっていく。その関係性までつくれたら、緑園高校の地域連携はかなり面白くなるのではないかと思います。（高山委員）

（2） 教育交流についてのご意見等

○ この様な学校運営協議会を通じて地域との意見交換を是非お願いしたい。（萩原委員）

○ 教育交流というと、大学や専門学校の先生が高校生に講義をする、あるいは高校生が学校を見学する、といった形になりやすいと思います。でも、それだけでは少しもったいないと感じます。

例えば高校生と専門学校生が同じテーマについて考えたり、一緒に制作したり、互いの成果物にフィードバックしたりする。

高校生が専門学校から学ぶだけでなく、専門学校生も高校生から刺激を受ける関係ができると、教育交流として一段面白くなると思います。（高山委員）

（3） その他、学校運営全体についてのご意見等

○ 生徒主体の活動を進めている県立高校は、無償化の影響等あると思います（多様な生徒の受入れ等）。「緑園らしさ」をどう打ち出すのかが課題だと思う。（谷委員）

3　その他、ご意見・ご感想

○ 今後の少子化に向けて、横浜緑園高等学校としてどのような教育的特色を出していくのかが気になりました。文化祭視察において、拉致問題などを含め「人権教育」を行っていました。階段などに「リーダーシップ教育」を行っている掲示がしてありました。例えば、このような取り組みを二つ別々に掲げるのではなく、一つの教育理念にまとめる等示していくことはどうでしょうか。

「違いを尊重し、対話と協働によって社会をより良くする力を育てる横浜緑園高等学校」人権教育が「相手を理解し尊重する力」、リーダーシップ教育が「周囲と協力して行動する力」と整理されるため、両者のつながりが伝わりやすくなると思いました。（新井委員）

○ これからも、緑園高校がこれまで大切にしてきた人とのつながりや、地域との関わりを大切にしながら、時代に合わせて新しい学びにも挑戦していってほしいと思います。

私たち外部の立場からも、学校の中だけでは生まれない出会いや機会を持ち寄りながら、生徒たちのこれからの学びを一緒につくっていけたらと思います。（高山委員）